

JA全農ウィークリー

6-7面

JA全農チビリンピック2018 晴天の下、6500人が熱戦

2面

香港に全農の事務所開設



鏡開きで全農香港事務所開設を祝う長澤会長(左から3人目)ら(2面)



日本硫安サービス合同会社の肥料貯蔵・出荷施設の竣工式(2面)



JA全農チビリンピックのミニマラソン参加者がスタートダッシュ(6-7面)

- | | |
|---|---|
| <p>2 日本硫安サービス合同会社の貯蔵・
出荷施設竣工(肥料農薬部)</p> <p>3 園芸拡大推進大会を開催(山形県本部)
農機系統シェア拡大推進運動表彰大会を
開催(福岡県本部)</p> <p>4 ハウスブドウの巡回視察・摘粒研修(山梨県本部)
JA島根ユースカレッジで新人職員研修
(肥料農薬部)</p> <p>5 「全農ブロガー」が農業の大切さ、全農の
役割発信(広報部)
音楽ファンへ宮城の「食」をお届け(宮城県本部)</p> | <p>8 JAブームイン(JA上伊那)</p> <p>9 県本部だより(鳥取県本部)</p> <p>10 青果情勢(園芸部)</p> <p>11 畜産情勢(畜産総合対策部)</p> <p>12 田んぼの生きもの調査
研修会参加者募集(広報部)
JAタウンショップ紹介
あいちゴコロ(JAあいち経済連)</p> |
|---|---|



News!



全農の香港事務所開設を盛大にお披露目

日本の食の最大輸出先香港で、さらなる拡大目指す

輸出対策部

鏡開きで全農香港事務所開設を祝う左から
松田大使、トミー・チョン立法會議員、長澤会
長、宮腰首相補佐官、バーナード・チャン商務
経済発展局副局長、金築道弘香港事務所長



長澤豊会長は「香港と当地を訪れる多くの方々に新鮮でバラエティーに富んだ食材を安定的に届けたい」

とあいさつし、宮腰光寛首相補佐官は「全農は日本各地で農家と向き合い高品質な農産物を集荷・供給でき

全農は4月25日、全農香港事務所およびJA全農インターナショナル(株)の香港現地法人設立に伴い、現地で香港政府の来賓に加え取引先、物流業者、現地の大手小売業者ら150人を超す関係者を招き記念式典を開催しました。

る、また在香港日本国総領事館の松田邦紀大使は「香港は日本最大の食の輸出先だが、香港にとって4番目の輸入国に過ぎず、全農進出により、ぜひ一番になってほしい」との力強いごあいさつをいただきました。

早速、商談も始まるなど香港でのビジネスチャンスが広がっています。全農グループは海外拠点を活用し、さらなる輸出拡大に取り組んでいきます。

News!



日本硫安サービス合同会社の貯蔵・出荷施設が竣工

大粒硫安の安定供給へ新設備が稼働

肥料農業部



竣工式に出席した久保常務(前列通路左)と宇部興産(株)の杉下秀幸取締役(同右)

主要な窒素質肥料の一つである大粒硫安は、相次ぐ工場閉鎖などにより需給逼迫が続いてきました。宇部興産(株)は、全農の要請を受け、大粒硫安約6万トンの増産を平成28年に決定し、平成30年4月の稼働に向けて新ラインの建設を進めてきました。

全農と宇部興産株式会社が共同出資して設立した日本硫安サービス合同会社の肥料貯蔵・出荷施設の竣工式が、4月24日に開催されました。



出荷施設から大粒硫安を船積み

により設立した会社です。大粒硫安3000トンを保管する倉庫と内航船に積み込む設備を有し、高品質な大粒硫安を短時間で効率的に出荷します。

4月に計画通り施設が完成したことを受けて、全農からは久保省三常務が出席し、安全運転と安定稼働を祈念して、関係者による竣工式が執り行われました。

今後、全農では日本硫安サービス合同会社を通じて、全国のBB肥料工場などへ大粒硫安を安定的に供給していきます。



実需者ニーズをつかみ産地一丸で自己改革実践

直販事業強化などに向け園芸拡大推進大会を開催

山形県本部



関係者らによるがんばろう三唱



生産者、県内JA、全国の主要市場関係者らが参加した園芸拡大推進大会

2018年度は、パートナー卸との連携による値決め販売などマーケティングによる直販事業の強化や、集荷機能の強化と規模拡大に向けた広域選果施設の活用による労働力支援に加え、包装加工機能を具備した「県南園芸ステーション（仮称）」を設置。さらに実需者と連

携した売り場確保につながる戦略的な消費宣伝事業を展開し、県産園芸作物の有利販売と消費拡大に取り組めます。

長澤豊運営委員会会長は「今後、持続可能な農業経営の安定化のため、販売力強化やコスト低減に向け一丸となって取り組み、『すべては組合員のために』を基本に農業振興・販売施策を行います」と意気込みを述べました。

山形県本部は4月19日、「実需者ニーズをつかみ産地一丸となった自己改革の実践」を掲げ山形市で園芸拡大推進大会を開きました。吉村美栄子山形県知事のほか、生産者、県内JA、全国の主要市場関係者ら約230人が出席。大会前に果実・野菜・花卉の分科会を開き、2017年度の取り組み検証と2018年度の取り組み具体策を協議し、生産者と市場・実需者らと意見交換しました。



農業機械システムシェア拡大推進運動表彰大会を開催

農業機械個人年間供給目標を176人中33人が達成

福岡県本部



倉重徳也福岡県本部長（前列右）と表彰された皆さん

大会では、平成29年度農業機械システムシェア拡大推進運動要領に基づき、奨励措置で定めるJA農業機械担当職員を表彰しました。今年は農業機械個人年間供給目標（5千万円、税抜き）を176人中33人が達成しました。

表彰後、スガノ農機株式会社の久保泰之担当が「土を考える農業について」の特別講演を行い、農業大国と日本の

福岡県本部は4月26日、平成29年度農業機械システムシェア拡大推進運動表彰大会を開き、JAや系統農機メーカーの担当者ら約110人が参加しました。

違い・状況に応じた耕耘など、とても好評で全員が真剣に耳を傾けていました。

平成30年度も県本部の指標に基づき、農機担当職員が一丸となって頑張ります！

各部門の受賞者

- 1 JA農業機械年間目標達成の部：2人
- 2 農業機械個人年間供給の部：3人
- 3 農業機械個人年間供給及び整備目標達成者の部：3人
- 4 農業機械個人年間修理整備料の部：3人
- 5 整備専任担当者年間修理整備料の部：1人
- 6 農業機械個人年間実販台数の部：3人
- 7 特別表彰（歩行用管理機実販台数の部）：3人
- 8 特別表彰（刈払機実販台数の部）：3人

本会のスローガン

- 一、個人別目標管理の徹底により、年間供給金額5千万円以上を達成し、修理整備料2百万円以上を確保しよう
- 一、系統農機のシェアを拡大しよう
- 一、農機センターの経営改善をはかりよう

News!

「デラウェア」などの仕上がり確認

県果樹試験場でハウスシャインマスカットの摘粒研修

山梨県本部



「デラウェア」の園地で果実の仕上がりなどを確認する参加者



県果樹試験場内のハウスで宇土主任研究員からハウスシャインマスカット摘粒のポイントを聞く参加者

同日の午後からはJA営農指導員、ハウスブドウ部会委員を対象に、県果樹試験場内のハウスで、ハウスシャインマスカットの研修会を開きました。山梨県本部が、県JAと協議して作成した「ハウスシャインマスカットの摘粒講習会資料」を

用い、同試験場栽培部の宇土幸伸主任研究員が指導しました。

宇土主任研究員からは「房尻が二股の場合は予備摘粒時に切除し、粗着な場合は仕上げ摘粒で房尻を切除する」など、管理上のポイントについて詳細な説明があり、若手指導員らは、メモを取りながら熱心に聞かしていました。

山梨県本部営農企画課は4月9日、JAフルーツ山梨管内の「デラウェア」、JAふえふき管内の「デラウェア」「キングデラ」のハウスを巡回視察しました。JAの営農指導担当者をはじめ、県ハウスブドウ部会委員、山梨県青果物検査協会も同行し、今年の果実の仕上がりや糖酸度を確認しました。

News!

農作業の省力化、安全で新人職員がみっちり

平成30年度JA島根ユースカレッジで営農経済部門配属直前研修

肥料農薬部



力作ぞろいの研修生のPOP

当日は朝から久しぶりのまとまった雨となり、当初予定していた圃場での研修、草刈り機の安全講習と各種草刈り機実演、サツマイモのマルチ張り、水稲除草剤散布、水田生きもの調査……などを急ぎJAしまねくにびき地区本部八雲支店の会議室とグリーンショップやくも店を会場に屋内研修に切り替えました。

平成30年度JA島根ユースカレッジ「新人職員課程」営農経済部門配属直前研修が4月24日、「農作業の省力化と安全な農作業：それを提案するのは……君たちだ!!」をテーマに中四国営農資材事業所、島根農機事務所、日産化学工業(株)が講師となり開かれました。

研修は①今後発売が予定されているラウンドノズルULV5を用いたラウンドアップマックスロード(除草剤)の省力散布の実演(ラウンドノズルULV5はラウンドアップマックスロード専用開発されたノズルとカバーのセットで、効果はそのままに希釈水量が従来の20分の1の5L/10aで散布でき、農家の作業負担が大幅に軽減されます)②農作業事故ゼロを目指す「農作業安全講習会③省力化や安全な農作業の必要性、重要性を、農家組合員の皆さんに伝える手段としての「POP作り研修会」を行いました。

研修で作成したPOPは、JAしまねくにびき地区本部管内のJAグリーン各店で実際に使用されます。



「全農ブロガー」が農業の大切さ、全農の役割発信

JAビルに集合しキックオフ会

広報部



キックオフ会に集まった「主婦記者」の全農ブロガーと落合成年広報部長



月刊生活情報誌『サンキュ!』

全農の「食農報道局」はこちらから



全農は平成23年度から、月刊生活情報誌「サンキュ!」の関連口コミWebサイト「口コミサンキュ!」の人気主婦ブロガーの中から選ばれた10人の「全農ブロガー」に、全農の商品や国産農畜産物についてブログで発信していただき、「食農育」に関する理解促進の取り組み

株式会社ベネッセコーポレーションの若年主婦向け人気No.1雑誌「サンキュ!」の全農ブロガー6人が4月25日、東京・大手町JAビルに集まりキックオフ会を開催しました。今後、全農の役割や農業について「主婦記者」として発信していきます。

を行っています。

29年度からは、ブロガーと一緒に苗作りから精米・袋詰め、販売まで行う企画「米(マイ)・サンキュ!」を開始。農業の大変さ、楽しさをブログや誌面で発信してきました。

さらに今年は全農ブロガーと定期的な勉強会を実施。農業の大切さはもちろんお米作りだけでは伝わらない全農の役割をブログで発信していただきます。キックオフ会では全農の業務や役割について最初の勉強会を行いました。今後のブログ記事に注目ください!



全国から集まる音楽ファンへ宮城の「食」をお届け!

「ARABAKI ROCK FEST '18」で販売ブース設置

宮城県本部

開場から多くのお客さまが訪れた宮城県本部のブース



宮城県本部は、「だて正夢のおにぎり」や「仙台黒毛和牛串」、「仙台いちご」、ミニトマト「アンジェレ」の販売を行いました。購入されたお客さまからは、「おいしい!」と大好評でした。また、「全農さんのブースを楽しみにしていました!」との声もいただきました。ガラパンの

宮城県本部は4月28、29日に宮城県川崎町のみちのく湖畔公園で開催された「ARABAKI ROCK FEST '18」に販売ブースを設置し、宮城県産農畜産物や全農商品のPRをしました。

抽選会では、「だて正夢」や「お米のミルク」などをプレゼントし、全農商品を知ってもらうきっかけを作ることができました。

販売ブースは開場からお客さまが途切れず、両日共に昼過ぎには完売となりました。このイベントには子どもから大人まで幅広い世代が参加しており、県外から来たお客さまも多くいたため、県産農畜産物の絶好のPRの場になりました。





JA全農チビリンピック2018

晴天の下、6500人が熱戦

全農が特別協賛する第40回JA全農チビリンピック2018が5月5日のこの日に、横浜市の日産スタジアムなどで開かれました。全農の特別協賛は今年で32年目。晴天にも恵まれ豪華ゲストも参加する中、約2万人が来場し6500人が各競技で熱戦を繰り上げました。

【広報部】

競技

日産スタジアムでは、親子マラソンやミマロン、50m走、100m走などが行われ、子どもたちが日ごろの練習の成果を競い合いました。

卓球

JA全農杯チビリンピック小学生卓球選手権大会を港北スポーツセンターで開催しました。参加者の白熱するプレーに会場は大いに盛り上がりました。

お楽しみ広場

地元神奈川県産品やJAタウン取扱



ミニマラソンで高橋尚子さんの応援を受けながら駆け抜ける子どもたち

チビリンピックの動画はこちら



チビリンピックに参加したベネッセプロガーさんはこちら



開会あいさつする山崎周二専務

高橋尚子さんと参加者代表が聖火点火!



参加ゲスト:高橋尚子さん、アニマル浜口さん、浜口京子さん、北澤豪さん、藤光謙司さん、三浦大輔さん、八木かなえさん、里崎智也さん、八重樫東さん(高橋尚子さんの誕生日ケーキを囲んで)

商品など多数販売。また今年は初めての試みとして全農提供ラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」でお楽しみ広場を生中継！スタジオDJとも息の合ったトークで会場の楽しさを広く全国のリスナーにも発信しました。

チビリンピック 参加者に 焼き餅配布

国産もち米をPR

米穀部

米穀部は、スポーツ大会などで競技参加者を対象にもちがスポーツに適した食材であることのPR活動を継続的に実施しています。今回は、5月5日に横浜市の日産スタジアムで開催された「全農チビリンピック2018」で、焼き餅の試食配布と国産もち米に関するパネル展示を行いました。

米穀部ブースでは2500個の焼き餅を用意し、大会に参加した子どもたちと家族の方々にご試食いただきました。

「おいしいので家でも食べたい」との声も上がり長蛇の列の大盛況となり、試食を通じてスポーツ大会におけるもちの相性訴求や国産もち米の絶好のPRの場となりました。

米穀部は今後もマラソン大会を中心に国産もち米の消費拡大への取り組みを強化し、もち米マーケットにおけるスポーツ食のポジションを確立していきます。



長い列ができた全農チビリンピックでの焼き餅配布



卓球会場でも熱戦!

子どもたちと初参加の元プロ野球選手・里崎智也さんが餅つき



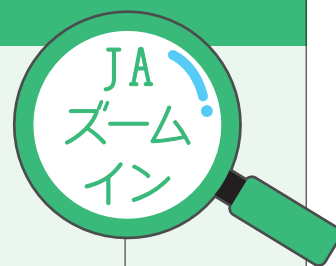
JA全農杯全国小学生サッカー大会の頂点はレジスタFC(埼玉県)
※(株)協伸商会も大会に協賛



全農提供ラジオ番組【JA全農COUNTDOWN JAPAN】初の生中継も!



お楽しみ広場で地元神奈川県産品などを販売



「組合員の声を聴く」活動展開

率直な意見をJA運営に反映

JA上伊那はJA自己改革に向け平成29年度から、新たに組合員との対話を強化するため「組合員の声を聴く」活動を始めました。

JA自己改革では、「組合員のJAへの参画意識向上に向けた全役職員の対話活動の強化」が不可欠。JA上伊那では「組合員の声を聴く」活動に取り組み、得た意見をすぐに対応するものと

次年度に対応するものに分け、関連部署で情報を共有し、JA運営に反映させています。

常勤役員を先頭に 訪問活動スタート

平成29年7～8月上旬にかけ、上伊那地域の農業の担い手である43法人を常勤役員らが訪問し、意見を交換しました。訪問した法人組

聞く機会がなかったため初めての実施となりました。

意見交換では「米を高く売ってほしい」「農業運転資金の金利が高い」という声や、営農指導員の育成強化に対する要望などが出されました。

農業運転資金の金利については、関連部署で直ちに検討を行い、11月から一定の基準のもと金利の引き下げを行うことでさっそく意見を反映させました。

支所運営委員会では 少人数に分け耳傾ける

10月には支所運営委員会を12総合支所ごとに開き、今回からは初めて少人数に分かれたグループワークを行い、声を聴く活動を強化



常勤役員が伊那市の(農)田原を訪ね意見交換



伊那支所の支所運営委員会で少人数に分かれたグループワーク

織は、JAの集落営農組織ネットワークに参画する担い手法人で、これまで研修会などの場はありましたが、個別に具体的な意見を



認定農業者訪問で飯島町の(有)越百農産から意見を聴く

しました。

同委員会は、JAの組織運営や支所を拠点とした活動に反映させることを目的に年2回開き、参加者は総代や農家班長、生産部会、生活部会、青壮年部の代表者です。今回は全会場で700人(出席率71%)が出席しました。

今までは1会場で1～2件だった意見が、グルー

ワークでは参加者一人ひとりから聞くことができ、多くの意見が出されました。参加者からはグループワークを評価する意見も聞かれました。

11～12月にかけて、JA上伊那管内482戸の認定農業者のうち77戸を役員が訪問し、個別に要望や意見を聞き取りました。訪問した認定農業者は、JA事業利用の多い人や少ない人、新規就農者や女性農業者などあえてさまざまな立場の人を選び、意見交換を行い自己改革のヒントや課題を探りました。

JA上伊那は平成30年度も全役職員が一体となり、「組合員の声を聴く」活動に取り組みしていきます。

JA上伊那 (長野県)



概要

平成30年2月28日 現在

正組合員数	1万5963人
准組合員数	1万4673人
職員数	897人
販売品取扱高	140億4千万円
購買品取扱高	105億4千万円
貯金残高	2720億8千万円
長期共済保有高	1兆928億6千万円
主な農産物	米、きのこ、 アルストロメリア(花)、生乳、 アスパラガス、リンゴなど

県本部 だより

鳥取県本部



燃料センターにLPガス 非常用自家発電機を設置 災害停電時のガス充填に対応

鳥取県本部は3月に、災害などの停電時のLPガス

充填対応策として、生活燃料部燃料センターに非常用LPガス自家発電機を設置しました。

発生し、836戸の顧客に供給できない状況になりました。復旧までの対応として、仮設容器の設置によりLPガスの使用を可能にしましたが、約400本の仮供給用の容器が必要となりました。そのため、燃料センターでは緊急時出勤と容器の確保、そして充填などの対応に当たりました。

されました。このような不安を解消し地域における充填所としての機能を発揮するため、非常用自家発電設備を設置しました。

同燃料センターは平成4年からLPガス充填を行っており、また容器再検査も行っています。充填所としては鳥取県中部地域における中心的な充填所であり、JAだけでなく商系事業者の充填も行っています。

非常用自家発電機によって停電時にも対応できるところで、大規模災害時など長期間の停電が続く事態や、電力不足による計画停電となった場合でも充填業務を継続して行えるようになりました。

容器転倒防止にも対応 災害に強い充填所へ

発電設備として、充填作業の動力用三相200Vと事務所用单相100Vの2基を設置し、充填業務に支障がない電力容量を確保しています。また燃料にLPガスを使用していますので、充填所のLP



燃料センターに設置された発電設備

ガスを利用することで燃料確保の問題にも対応できます。

5月11日、関係者約20人を招いて落成式を行いました。尾崎博章県本部長のあいさつに続き、県LPガス協会会長に完成の祝辞と地域のLPガス充填拠点としての期待の言葉をいただきました。非常用発電設備の概要説明の後、尾崎県本部長、丸山副本部長による施設稼働、電源切り替えの後、発電電力によるLPガスの容器充填実演を行い、災害時においても地域の中心的な充填所として機能することをアピールしました。

今後は、定期的に動作訓練を行い能力維持に努めるとともに、容器置き場の容器転倒防止対策にも取り組み、災害に強い充填所を運営していきます。



地域の中心的なLPガス充填所の役割担う燃料センター



落成式典であいさつする尾崎鳥取県本部長

地域のLPガス充填所 機能発揮・維持へ設置

幸いにもこの地震による停電は充填作業には影響ありませんでしたが、東日本大震災のような長時間停電や計画停電となれば充填作業が止まりLPガスの安定供給ができなくなることも想定

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

関東や準高冷地が出荷の中心

概況

5月は、出荷の中心が西南暖地・九州から、関東や準高冷地に切り替わっていく時期となります。

キャベツは、千葉・神奈川・茨城などの関東産地や愛知などが出荷の中心となります。作付けは他産地は横ばい傾向ですが、千葉は台風後まき直しのため増加となっています。生育はおおむね順調で、出荷量は前年よりも多く見込みます。

ハクサイは、茨城・群馬・長野などが出荷の中心となります。茨城の春作は前進傾向の生育となっています。後続の群馬・長野産は下旬から出荷開始が見込まれます。出荷量は、前年並みを見込みます。

レタスは、茨城・群馬・長野が中心の出荷となります。茨城は前進傾向の出荷となっております。また上旬以降は後続の群馬・長野の出荷も始まりました。出荷量は、高冷地の前進出荷に伴い、前年よりやや増加を見込みます。

ダイコンは、千葉などの関東産地が中心の出荷となります。関東産地は1月の種まき作業の遅れにより、作付けはやや増加しています。気温高と適度な降雨から肥大順調であり、出荷量は前年よりやや増加を見込みます。

ニンジン、徳島・千葉が中心の出荷となります。徳島は低温・干ばつにより生育遅れがみられます。千葉の春作はやや生育遅れがみられますが、今後回復に向かう見込みとなっております。出荷量は、前年並みを見込みます。

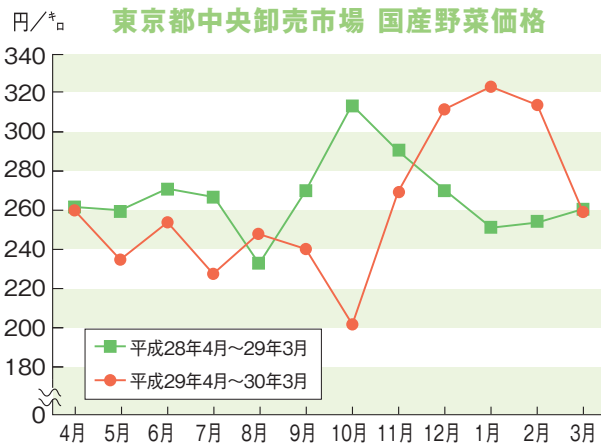
トマトは、熊本や愛知、関東産地が中心の出荷となります。生育良好で出荷量は前年並みを見込みます。

キュウリは、関東産地中心の出荷に東北産地からの出荷が加わります。一部産地では干ばつ傾向、また高冷地の作付け減少を受け、出荷量は前年よりもやや少ない見込みとなっています。

ナスは、高知や九州産地が中心の出荷となります。下旬より出荷量増加となる、後続の群馬もおおむね生育良好。出荷量は、前年並みを見込みます。

店頭

キャベツ、レタスなどの春物野菜中心の売り場構成になっています。気温の上昇に伴い、サラダ商材の売り場も拡大しています。



主産県
だより

4月は、ブロッコリー、トマト・ミニトマト、キュウリ、レタス、アスパラガス、イチゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。



果 実

イチゴ・かんきつ類からメロン・スイカへ

概況

5月の国産果実の中心は、イチゴ、かんきつ類からメロン、スイカなどヘシフトしていきます。

イチゴは、各産地とも終盤を迎え、中旬から出荷は減少していく見込みです。切り上がりは前年より早くなる見込みで、出荷量も前年をやや下回る見込みです。

メロンは、茨城・熊本などが中心の出荷となります。3月末からは好天にも恵まれ品質もよく、玉肥大も順調です。出荷量は前年を上回る見込みです。

スイカは、熊本・千葉中心の出荷となります。熊本は、3月の低温の影響で4月の出荷量は前年を下回りましたが、ゴールデンウィークに向け増加傾向であり、千葉からの出荷も始まります。出荷量は前年を上回る見込みです。

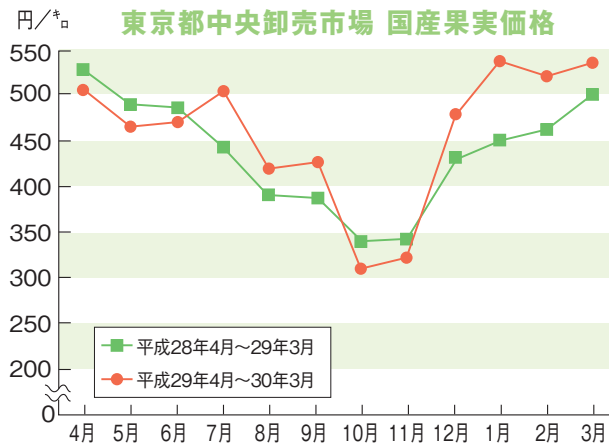
小玉スイカは、茨城などが中心の出荷となります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

オウトウは、山形などが中心の出荷となります。ハウス物が主体となり、出始めから増量ペースは順調で、ゴールデンウィークから母の日までが出荷のピークとなる見込みです。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

ビワは、長崎・千葉などが中心の出荷となります。出荷量は前年を下回り、おおむね前年並みの出荷が見込まれます。露地物は連休明けから出荷が始まりました。

店頭

果実売り場は、それまで中心であったイチゴ、かんきつ類に変わり、メロン、スイカ、リンゴ、バナナ、キウイなど多種多様な品目が並びます。スイカやメロンでは、1個売りの他に、消費者ニーズに合わせたカット・小ロット販売の品数を充実させるなど、各量販店は季節感を出しながら、売り場を拡大していきます。



[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛 肉

和牛はもちあいで推移

4月の成牛と畜頭数は、速報値で約8万7千頭(前年比98.0%)と減少しています。

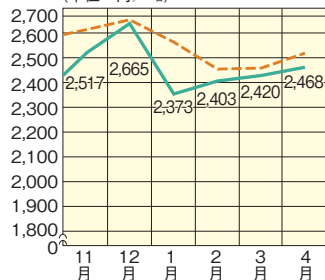
4月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2821円(前年比98.9%)、和牛去勢A4が2468円(同97.1%)、和牛去勢A3が2152円(同95.7%)、交雑牛B3が1479円(同92.9%)でした。

農畜産業振興機構が公表した5月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約3万4千頭(前年比103.4%)、交雑牛が約2万頭(同104.2%)、乳用種が約2万7千頭(同98.0%)で、全体では約8万2千頭(同101.7%)と見込んでいます。

4月は上旬に在庫補充買いや行楽需要、中下旬になると大型連休に向けた手当が見込まれ、需要・荷動きの改善が期待されていたものの、和牛は月の後半から相場が弱もちあいで推移しました。一方、交雑牛はやや強含む展開となりました。

5月は、連休明け直後は在庫補充買いで一定程度相場は強含むとみられますが、その後は、和牛はもちあい、交雑牛はやや強含むで推移すると予測します。

牛枝肉相場(東京市場・和牛去勢A-4)
平成29年11月～30年4月
平成28年11月～29年4月
(単位: 円/㌔)



豚 肉

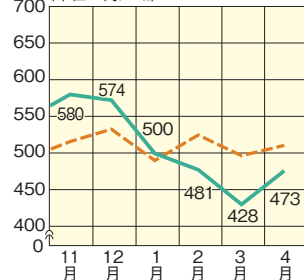
相場上向く

4月の全国と畜頭数は、速報値で約131万頭、前年同比99.6%となっています。

4月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で473円/kg(前年比92.7%、前月比110.5%)となりました。4月半ばまでは低迷していた相場もゴールデンウィークを控え、下旬ごろから500円/kgを超える展開となりましたが、安定的に供給される輸入チルドポークの影響もあり、前年を下回る結果となりました。

農畜産業振興機構発表の5月出荷予測頭数は、約136万頭(前年比99.9%)と、国内生産は安定的な出荷が見込まれるのに加え、輸入ポークについても引き続き安定的な供給が見込まれています。ただし、このところの豚枝肉相場低迷の影響を受け、国産豚肉の荷動きが良くなっていることから、5月は昨年には及ばないものの、相場は上向いていくものと思われます。

豚枝肉相場(東京市場規格「上」)
平成29年11月～30年4月
平成28年11月～29年4月
(単位: 円/㌔)



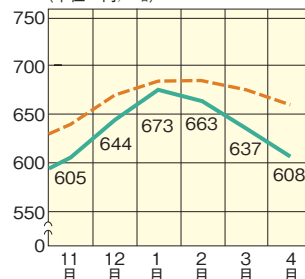
鶏 肉

もも下げ基調で580円

4月の平均相場は、もも肉608円/kg(前月比29円下げ)・むね肉295円/kg(同10円下げ)で、正肉合計で903円/kgと前月比39円下げ、前年比で80円の下げとなりました。もも肉は、暖かくなったことから鍋物需要が低下し、月初め621円からほぼ月を通してジリ安となりました。むね肉は、輸入鶏肉価格の軟調に引きずられ下げ基調ではありますが、月初め294円・月末291円と、依然として旺盛な需要に支えられ高い水準が継続しています。

5月は全国的に気温が平均より高いと見込まれていることから、もも肉は行楽シーズンでの唐揚げ需要などはあるものの、下げ基調で月平均で580円、むね肉はもちあい圏内で295円と予測します。

ブロイラー市況(もも肉・東京)
平成29年11月～30年4月
平成28年11月～29年4月
(単位: 円/㌔)



鶏 卵

一段低い水準で推移

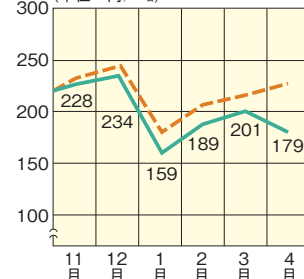
4月の東京相場の月間平均は、下押しの展開が続き、Mサイズ基準値179円(前年比△48円)となりました。

近年の積極的な増産により、供給量が大幅に増加したため、堅調に推移していた需要を上回り、在庫を抱える産地も見受けられることから、相場は5年ぶりの170円台となりました。

テーブルエッグは先月に続き堅調な荷動きでしたが、業務筋は花見などの季節需要が予測していたほど盛り上がりせず、全体的に低調だったことに加え、加工筋は先月に引き続き在庫水準が高く、荷動きが鈍い状態が続きました。

今後は、大型連休中の取引先休業による卵の滞留により産地在庫の水準が上昇する懸念があることに加え、気温の上昇とともに需要の減退も予想されることから、相場も引き続き一段低い水準で推移することが予測されます。

鶏卵相場(東京・Mサイズ基準)
平成29年11月～30年4月
平成28年11月～29年4月
(単位: 円/㌔)



生きものを通じて
「農」の持つ豊かな力を伝える

第1回 田んぼの生きもの調査研修会 参加者募集!



全農は平成18(2006)年度から「田んぼの生きもの調査」を環境SR(社会的責任)活動の柱と位置付け取り組んでおり、昨年度の実績は、計78

回、参加人数は延べ4200人を超えるまでに拡大してきました。

この活動は、参加者が生きものと直接触れ合う体験を通じて、水田が果

たす多面的機能(なかでも生物多様性保全機能)をより深く理解し、日本のお米を食べることの意味を国土保全や生きものとの共生の観点から学ぶことを目的としています。「田んぼの生きもの調査」を食農教育「あぐりスクール」に採り入れるJAも多くなっており、「農」や「田んぼ」がその地域になくはならないことを、心躍らせる経験をしながら楽しく学べる活動として高く評価されています。

平成23年から始まった本研修会には、延べ400人を超えるJAグループ関係者が参加し、各地域での「生きもの調査」の普及に貢献されています。皆さまの参加をお待ちしております。

募集要項

募集人員	40人(申し込み多数の場合は抽選)
対象	JA職員、県連職員、関連会社社員、全農職員
日時	6月14日(木)9時30分~15時30分
参加費	無料
場所	杉戸町立高野農村センター(埼玉県杉戸町)
講師	谷川 徹氏(里と生きものネットワーク)、 嶺田 拓也氏(農業・食品産業技術総合研究機構)、 高橋 朝美氏(一社 環境パートナーシップ会議)
協力	埼玉県杉戸町、JA埼玉みずほ
締め切り	6月8日(金)
申し込み	(株)全農ビジネスサポート 広告・業務サポート部(担当:中川)
問い合わせ	TEL:03-3296-8676 E-mail:tanbo@z-bs.co.jp

TODAY'S AGRI NEWS

5月から、毎週金曜日6:25~6:30、TOKYO FM/JFN系列各局で、日本農業新聞のニュースを生放送でお届けする「TODAY's AGRI NEWS」がスタートしました!(広島は5:50~5:55、青森は6:15~6:20)

7月からは、月~金曜日の毎朝の放送となります。ぜひお聴きください。

JAタウン ショップ紹介

JAタウン

検索
クリック

あいちゴコロ(JAあいち経済連)



JAタウンは
こちらから



ハウスいちじく 2パック
(2L~L 4~5玉×2パック).....3200円

「あいちゴコロ」ショップからご紹介するのは、ふっくらやわらか甘〜い果物「いちじく」です。

いちじくの生産量が日本一の愛知県では、5月からハウスいちじくの出荷が始まっています。JAタウンでは、おいしいいちじくを少しでも新鮮な状態でお届けするため、朝どりしてその日に発送します。

最近では、パンやスイーツに使われているドライいちじくを見かける機会が多いかもしれませんが、生のいちじくもおいしいですよ!!

食べきれない場合は、そのまま凍らせて、シャーベットの様にお召し上がりいただけます。ぜひ、いちじくの上品な香りをお楽しみください。

なお、ご紹介した商品は、6/1(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。

商品代金のほか、クール代、お届け先により送料が必要となります。

※北海道・青森・岩手・長崎・宮崎・鹿児島および沖縄・離島へのお届けはできません。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。